

～ 地域の歴史とみんなの記憶に残るなつかしい風景を呼び起こす ～

「なつかしき心のまちかど」再発見

灘中央地区まちづくり協議会

1. なつかしき心のまちかど

灘中央地区まちづくり協議会では、「なつかしき心のまちかど再発見」と題して、家庭やお店に残る古い写真を発掘し、昔話を聞いて、思い出の中に眠っているまちの記憶を呼び戻そう、それを次の世代へ伝えていく財産としようという活動を行っています。昨年の夏にスタートして徐々に資料が増えており、現在160枚程のいずれも興味深い写真が集まっています。

集まった写真はデジタル化してパソコンに取り込み、液晶プロジェクターでスライド上映会を行います。パソコンを活用することで、部分的に写真を拡大したり、あるいは反転させて見るなどの加工が可能で、ひとつの写真からいろいろな情報を取り出すことができます。手始めとして9月には集まった写真で映写会をしながら、年表作りとマップづくりをするワークショップを行いました。写真を元にいろいろな記憶が呼



なつかしいスナップ写真で
話題が盛り上がる

び覚まされ、普段何気なく見ていた街角の風景が、愛すべき大切なものであると再認識されるとともに、気付かないうちに進むまちの変化が大きな驚きとなって伝わりました。

2. 「わくわく昔探検隊」

その後、写真の収集と平行して、シニアクラブでの上映会、区民ホールでのパネル展示などを行いました。今年2月には地域の稗田小学校の先生方と協働して、同校3年生の総合学習「わくわく昔探検隊」に活用し、子供たちに大変な好評を博しました。古いまち並みの写真を映し出すと、子供たちは一瞬首を傾げるのですが、わずかな手がかりから現在の場所を想像し、その変化の大きさにびっくりします。逆に変わらず残っているものは、子供たちに大きな驚きを与えます。その驚きは、実際に現地を訪れるまち歩きの間へと引き継がれ、自分たちの住むまちを知る発見の

授業として大変おもしろい取り組みとなりました。

この他3月にはふれあいのまちづくり協議会が行っている、高齢者への給食サービスへの出前スライドショーを行いました。若き日の自分が登場する写真



「わくわく昔探検隊」熱心に見入る子供たち

に対面した方もいて盛り上がりました。

3. 今後の取り組み

協議会では、5月から地域でのいろいろな活動を下支えするために、常駐のスタッフによる活動拠点『まちづくりハウス』を開設します。そこを窓口として、写真の収集を行い、聴き取り調査の輪を広げていくことを考えています。また地域の銀行・病院・診療所でのパネル展示や、屋外でのストリートギャラリーなどの展開、古い写真を片手に今をめぐるウォークラリーの実施、夏の野外ナイトショーなど、さまざまな企画の案が膨らんでいます。これらを通してさらに興味深い写真や昔話が集まっていくという相乗効果も期待できそうです。また、写真を収集する活動を通じて市電愛好家のグループとの交流も始まろうとしています。将来的には過去から現在そして未来へと人と人を繋ぎ、まちへの興味をつないでいくことで、まちのよさを守り育てる活動の核になっていくのでは、と期待されています。

※灘中央地区まちづくり協議会(平成7年11月21日設立)
震災前から水道筋周辺の商店街、市場の商業者を中心に行われていたまちづくり活動を母体に、震災後、商業者と住民が一体となってまちづくり協議会を設立した。「まちづくりはひとづくり」を合言葉に、住環境や商業活性化、子供の安全などをテーマとして総合的なまちづくりの活動を続けている。平成12年度からは環境をテーマとしたエコタウンにも取り組んでいる。

まちづくりワークショップ・基礎講座 —その1—

1. ワークショップってなあに？

「ワークショップ？それ何？」そう聞く人はだんだん減ってきたかもしれません。特に神戸では、震災以降たくさんのワークショップが開催されています。

「あーばんとーく」の読者なら「ワークショップ」という言葉は聞かれたことがあるでしょう。また、実際に参加した、という方もたくさんいらっしゃると思います。しかし、ワークショップをひとことで説明するのは、なかなか難しいようです。どうやら決定版といえるような定義も、まだありません。そこで、これから数回に渡り、市民参加の有効な手段として定着しつつある「ワークショップ」について、具体的な事例も引きながら、ご紹介していきたいと思います。

2. ワークショップの目的

ワークショップは、参加者が自由にアイデアを出し合い意思決定する集まりです。既にできあがった内容を一方的に説明するのではなく、できる限り参加者全員の意見が反映される内容をみんなで作っていきます。そのために自由に意見を出しやすいような工夫が考えられているのです。一般的には参加者を6～8人程度のグループに分けて、それぞれのグループごとに意見をまとめ、それを全体の場で発表し、まとめていく方法が取られています。こうすることで、多くの人の前では発言するのが苦手な人にも意見を言いやすい雰囲気ができますし、特定の人に発言が偏って時間を費やすことを防ぐことができます。

3. ファシリテーターの役割

ワークショップを進行する人をファシリテーターと呼びます。英語で「facilitate …容易にする。促進する。」とあるように、参加者が発言しやすいような雰囲気作りをしながら会を進める役割を果たします。常に中立な立場で、声の大きな人や偏った立場の人ばかりの話し合いにならないよう、また建設的に無駄な



現地を実際に確かめる(海の茶屋駅前階段)

く進むように工夫するのもファシリテーターの役目です。ただし、ファシリテーターは、出された意見の良し悪しを判断しません。それは参加者全員の役割なのです。

4. ワークショップの手法

ワークショップでは、参加者が意見を出しやすいように、いろいろな工夫を凝らした手法が活用されています。よく使われるのは、ポストイットを使ったKJ法という手法です。ワークショップというとKJ法を使った会議のことだと思われる方も多いかもかもしれません。各自がポストイットに意見を書き出し、同じものをグループでまとめていくと、参加者全体の考えが見えてきます。参加者が一人ずつ発言すると膨大な時間が必要ですが、この方法では限られた時間で全員が自分の意見を表明でき、かつきちんと記録として残すことができます。また、人前で話すのが苦手な人でも書くことで意見表明できるという場合もあります。

しかし、ワークショップの手法はKJ法だけではありません。ものづくりのワークショップでよく使われるのは、デザインゲームという手法です。ふつう、設計やデザインなどは専門家の仕事とされていますが、ワークショップでは、いわゆる素人の参加者が意見やアイデアを出し合って、実際に設計やデザインに参加するための手法が考案されています。これがデザインゲームです。現地を実際に歩いて調査したり、模型を作ってみたり、一見楽しいゲーム仕立てのプログラムも開発されていて、公園の計画づくりなどでは、既にこの方法でたくさんの事例が生まれています。

このシリーズでは、次回から山陽電鉄海の茶屋駅で行った階段整備の計画づくりを中心に、デザインゲームを手法に取り入れたワークショップの企画から実施までをレポートしていきたいと思います。

西 修 (神戸市住宅局住環境整備部地域支援課主査)



ポストイットで意見を出し合うKJ法

連載「コンパクトタウンづくり」活動報告

第2回 ^{ちえ}^{みち} 智慧の道地区（神戸市須磨区）

■須磨寺周辺について

神戸市須磨区須磨寺町周辺は、面積約30ha、北側には六甲山系の鉄拐山、南側には海水浴場として有名な須磨海岸があります。町の中には、源平や菅原道真の故事にゆかりの深い「須磨寺」、「綱敷天満宮」などの歴史的資産もあります。

■智慧の道（お大師さん・天神さん道）推進連絡協議会

須磨寺町周辺も、阪神・淡路大震災の影響を受け、世帯数は以前の約6割に減少、この地域の中心に位置する須磨寺前商店街も震災や長引く不況の影響で業績は思わしくありません。「このままでは地域は衰退していく。何とかしなくては。」と、須磨寺前商店街・須磨寺・綱敷天満宮・地域住民等が集まり、平成11年度から「お大師さん・天神さん道推進連絡協議会」を発足させ、「須磨寺周辺ぶらりマップ」の配布や「道標」の設置などの活動を行ってきました。平成12年度には「ざっくばらんに語る会」を立ち上げ、毎月地域の歴史や観光資源を生かしたまちづくりについて、なんでも前向きに話し合っています。

「ざっくばらんに語る会」から生まれたアイデアは、地域住民の協力が得ながら、できることから即、実行に移すことにしています。



地域の特徴である坂道に「愛称」をつけ、地域の観光資源も載せた「須磨の坂道マップ」を作ったり、地域の花鳥風月と行事を「まちの歳時記」としてまとめたほか、「地域の顔」ともいえる須磨寺と綱敷天満宮をつなぐメインストリートである「お大師さん・天神さん道」の愛称を弘法大師と菅原道真にあやかり「智慧の道」と名づけました。



また、来訪者に願い事を書いてもらい、賑やかに飾られた笹や短冊がまちにあふれる「七夕まつり」、毎年8月の「灯明会」と大晦日に合わせて、ろうそくで参道を飾り来訪者を出迎える「光の回廊」など、いくつもの門前町らしいイベントが生まれ、地域の恒例行事として定着しつつあります。来訪者だけでなく地域住民の方からも「人と人とのつながりが広がって嬉

しい」「地域が元気になってきた」といった声も多く寄せられ、地域の活性化に貢献しています。



さらに、まちの景観についても、他都市の視察会など、検討をはじめています。

■第4回「須磨寺楽市」レポート

門前町に活気を呼び、第4回「須磨寺楽市」が4月14日に開催されました。須磨寺前商店街から須磨寺までの参道を利用した約140店のフリーマーケットや、地元小学校の卒業生による「須磨太鼓」の演奏などが行われ、約2万人の人出でにぎわいました。



毎年、春・秋2回の開催で知名度もかなり上がって、楽市が待ち遠しいというファンも増えてきました。回数を重ねる度に、反省点を改善に生かし、地域住民の手づくりのイベントを心がけてきました。その甲斐あってか、出店者にも「小規模ながらも素人の手づくりの良さ」というコンセプトに合うように、という気配りが感じられ、門前町らしい雰囲気が出てきました。

■協議会の会長を務める、

上田育宏さんのおはなし

震災や不況などの影響で、商店街の衰退はどこでも大問題で、私達も危機感を持っていました。しかし、手づくりのイベントを重ねるうち、イベント時には忘れられた商店街がにぎわい、よみがえったかのようです。また、以前はイベントなどにも消極的だった商店街の会員が積極的に協力するようになり、確実に意識改革は進んでいます。地域住民の「次は何をするんやろう？」という期待も感じています。今後は、地域の名物づくりにもっと力を入れるなど、最終的にはコンパクトタウンの中心となるような「毎日が縁日」のような商店街を目指して取り組んでいきたいと願っています。



（企画調整局総合計画課・須磨区まちづくり推進課）

第18回 日韓写真文化交流展

地球は一つ
人類は自然と共に・・・そして写真は



「地球は一つ」(作者:全 成林)

日本と韓国が共催する FIFA WORLD CUP の祭典には両国にとって歴史的に記念すべき大きな意義があります。

会期 2002年6月6日(木)～6月11日(火)
AM10:00～PM7:00
(最終日PM4:00)

会場 こうべまちづくり会館ギャラリー

主催 日韓自然写真家協会

入場無料

後援 兵庫県、神戸市、神戸市教育委員会

駐大阪大韓民国総領事館神戸事務所

駐神戸韓国総合教育院、大韓国民団兵庫県地方本部

兵庫韓国商工会議所、IPA国際写真家協会

日本と韓国の作家約50名による作品70点が展示されます。
両国の友好を深める催しでもあります。是非ご覧ください。

まちづくり会館からのお知らせ

こうべまちづくり会館 1階オープンギャラリーの展示

5月2日(木)～31日(金)	震災に耐えた 近代和風木造住宅	住宅局建築技術部技術管理課
----------------	-----------------	---------------

こうべまちづくり会館 地階ギャラリーの予定

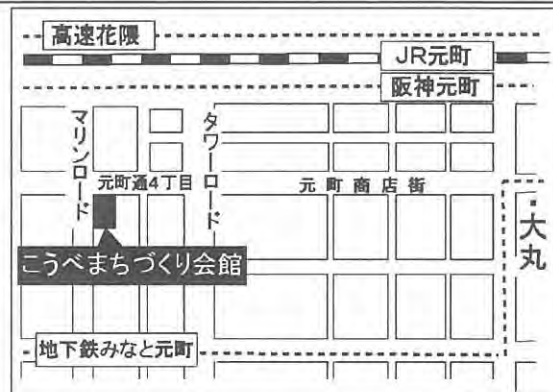
期 間	内 容・テ ー マ	主 催 者
5月 9日(木)～14日(火)	新樹会水彩画展	新樹会
5月16日(木)～21日(火)	燦月会絵画展(油彩)	燦月会
5月23日(木)～28日(火)	神戸パステル画会展	神戸パステル画会
5月30日(木)～6月 4日(火)	木曜会70周年記念展(油彩)	木曜会
6月 6日(木)～11日(火)	第18回日韓写真文化交流展	日韓自然写真家協会

すまい・まちづくりのご相談は

- すまい・まちづくり人材センター
(こうべまちづくり会館 3F)
電話 078-361-4377 FAX 078-361-4584
受付は、月・火・木・金曜の午前10時～午後5時
- 土・日・祝日は
事前にご連絡ください。

自治会活動などのご相談は

- コミュニティ相談センター(まちづくり会館4F)
会報等の印刷サービスや自治会の相談(インストラクター派遣など)
受付:午前10時～午後6時(水曜・年末年始は休館)
電話 078-361-4565



最寄駅

- 地下鉄海岸線みなと元町駅西口から1分
- 高速花隈駅東口から3分
- 高速西元町駅東口から5分
- JR・阪神元町駅西口から8分